

編集後記

「大衆」という言葉を冠した雑誌はいくらでもある。「文化」という言葉もまた然りだ。しかし、「大衆文化」となるとどうだろう？ 捉えどころのなさゆえか、これまで学術研究の場では個々のテーマが細分化され、「大衆文化」という問題系そのものと正面から向き合おうとする試みが少なかったように思う。

本誌が狙いとしているのは、雑多な蠢きとしての「大衆文化」なるものを一段高いところから解釈してみせることでもなければ、いままで見過ごされがちだった世界に光をあてて価値の再発見を試みることもでもない。それぞれの書き手が、それぞれの関心にもとづいて自由自在な考察を展開することはもちろん大事だが、それと同時に、「大衆文化」を論じる自分自身にも鋭利なものが突きつけられるような感覚、問いを発すれば発するほど安全かつ特権的な場所から引きずり降ろされていくような不安定さを携えながら探究を進めていくことが、この雑誌を読みごたえあるものにするための重要な鍵なのではないだろうか。

「創刊準備号」とはいえ、今号に収録された論文、エッセイはどれもみな清新な視点と力のこもった内容をともなっている。次号からの本格始動に向けて、読者のみなさんからの率直なご批評を乞いたい。